

令和5年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名:広島大学附属東雲小学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価	
教育課程・ 学習指導	学級学年の枠を越えた「チーム東雲」を実感しつつ愛校心をもって教育活動を推進する。	異なる学級形態を有する本校の特長を生かしつつ、教育実践の質的向上を図る。	縦割活動を基軸にして日常的にかつ継続的に児童の情報交換をする場を設け、共有し合う。	縦割班での関わりに関する児童と教員へのアンケートを行い、肯定的な評価を80%以上にする。	教員85%以上、児童80%以上が縦割活動で関係作りができていますと回答している。会議等の場で情報交換もできた。	A	「東雲家族」が象徴しているように、縦割活動を通しての異学年交流や様々な児童どうしの直接的な関わりをこれまでもまして大切にしてほしい。	A	異学年交流では、それぞれの学年の役割を明確にして評価していくことで児童の成長につながる取組にしていきたい。
	ことばの教育を核に相手を尊重する児童どうしの関係を構築する。		低中高別の目標と具体的な方策を共有し、児童の姿から成長や変容を見取る。	年間3回のふり返りを通して目標と照らし合わせた児童の姿を肯定的に評価できている。	年間3回の場の他に、児童実態に応じて向かう方向性を確認することができていた。ことばの教育は教員間に意識や感覚の差が感じられる。	B	ことばの教育は、ことばを伝え合う人と人との関係(相手尊重)づくりの教育とも言える。ぜひ継続してほしい。	B	ことばを通して人と人との関係づくりを構築する教育を大切に取組を継続していきたい。そして児童の具体的な姿を見取り指導していきたい。
教育研究等	教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力に関する研究を推進する。	附属学校としてのミッションを踏まえ、研究の成果を研究会や書籍を通して発信する。	年間8回小中合同全体会を開き、計画的に推進する。	合同全体会の他に授業研での小中交流や小学校だけの研修を10回以上実施する。	研究推進計画通り小中合同全体会や校内授業研、校内研究発表等を行うことができた。質的な向上をさらに求めたい。	B	忙しい業務の中で、教育研究は附属学校教員の使命の一つである。公立小中学校のモデルとして研究成果を発信してほしい。	B	研究成果を紀要にまとめることの他に、研究の進め方に関する情報発信をホームページで示すなど、さらに工夫したい。
	特色である複式教育の研究を推進し、その成果を発信する。		全体での複式理論研修をもとに授業公開座談会を開催する。また「複式ハンドブック」の原稿を完成させる。	複式教育授業座談会の参加者の満足度80%以上。また原稿を完成させる。	複式教育授業座談会の自由記述を読む限り、参加したことに満足しており、改めて複式教育を考えるきっかけになっている。ハンドブックも初校段階に入っている。	B	複式学級をもつ本校の特色を最大限生かそうとする点が評価できる。今後においても、ニーズのある複式教育についての研究を質的に一層高めてもらいたい。	B	複式ハンドブックが完成した際は、ホームページや教育研究会や複式教育授業座談会を通して積極的に発信していきたい。
社会連携・ 社会貢献	大学や他団体からの要請に積極的に協力する。	小中連携や多様な学級形態を有する本校の特長を生かし、大学や他団体からの要請に応え、地域の教育力向上に貢献できるようにする。	講師派遣や視察、調査等の協力、外部研修への能動的な参加を行う。	大学との共同研究や視察、AR実地研究や調査協力等の実績を昨年度以上にする。	広島大学からの依頼は20件(AR実地研究8件を含む)の他、地域社会等の依頼も19件と昨年度以上となった。	A	大学の附属として、大学からの依頼に応えることを期待されている。はある意味当然である。可能な限り主体的に協力し連携してほしい。	A	教員への負担も考えつつ、これまで通り積極的に協力し、貢献できるように努めたい。
				年間3回以上の研修報告の実施により本校への新たな研究示唆を獲得する。	他附属の研究会報告等の報告を年間4回実施した。	B	様々な研修に参加して学ぶ場を求めることは、教師としての力量を高める上で効果的である。情報共有する場を大切にしてほしい。	B	本校への研究示唆を明確にした報告になるよう、資料を作成し、教員全体で共有する場を設けるようにする。

注) ☐ 太枠内は、学校関係者評価委員会が記入する。

令和5年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名:広島大学附属東雲小学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価	
学校経営・安全管理等	安全な学校生活にするための教育環境を整える。	学校教育の基盤となる健康, 安全, 安心の確保及び附属学校としての使命遂行の観点から業務内容の精選を図る。	月1回の安全点検から修繕等の箇所を把握し, 迅速に対応する。	修繕等希望箇所への対応を迅速に判断し, 100%行う。	変圧器の交換や教室の壁の修繕, エアコンの随時更新等, 優先順位を考え, 迅速に実行できた。	A	児童にとって過ごしやすい教育環境を整える努力を大学当局とも連携して継続してほしい。	A	予算も関係してくるので, 計画的に修繕等を進める件と臨機応変に対応する件とを分けて進めていきたい。
	ICTの環境を整備し, 効果的に活用する。		新たに情報教育推進部を校務分掌として立ち上げ, 環境整備や効果的な活用を推進する。	児童のアプリによる出欠確認, ペーパーレス会議, 児童のタブレット端末の効果的活用等を実施する。	情報推進部によるミニ研修を年3回行い, 情報を共有することができた。 ペーパーレス会議やアプリの利用が定着した。	B	社会情勢を考えるとICT教育は欠かせない教育内容である。できることをできる範囲で少しずつでも前に進めて業務遂行の効果的な改善に努めてほしい。	B	教員個人の力量に頼るのではなく, 児童に身につけたい学年別の指導内容を明確化し, ICT教育の推進を図りたい。
	教員自身が自らの働き方を意識し, 健康管理に努める。		組織目標達成のための方策を業績評価シートに明確に表す。	一昨年度より時間外勤務5%削減を60%の教員が達成する。	5%削減に向けて方策実現に努力は感じられるものの, 繁忙期や6学年担任は難しい面が見られた。	C	しなければならない絶対的な仕事があることは理解できる。しかし, 働き方を考える取組について創意工夫し健康管理に努めてほしい。	C	組織目標の達成を勤務時間外の在校時間を月42時間以下とすることを目標値として設定する。働き方に対する教員一人一人の意識をさらに高めたい。
教育実習	主体的・協働的に学ぶ教育実習を実現する。	次世代型の教育実習を開発する。	学級反省会の自主的な運営と協議を行い, 児童理解の深化を図る。 教科横断の授業提案を含めた学級代表授業を実施する。	教員と実習生へのアンケートによる主体性・協働性に関わる肯定的な評価を90%以上にする。	実習生へのアンケートから教育実習に対して95%以上肯定的な回答が得られた。教員も主体的協働的な教育実習が実現できたと回答しており, 教員の意識の統一が図れた。	A	教育実習生は満足度も高く, 教員と実習生の関係も充実していることが評価できる。教師離れが叫ばれる中で, 夢ややりがいを持って教師になり, 教員の意識の統一が図れた。	A	教師の魅力だけでなく, 責任や役割の重要性も含め教師の具体的な姿をモデルとして示すことで, より充実した教育実習の実現をめざしたい。

注) ☐ 太枠内は, 学校関係者評価委員会が記入する。